

令和 7 年度（2025 年度） 事業報告

地域密着型特別養護老人ホーム くぬぎ荘

はじめに

令和 7 年度を振り返り、くぬぎ荘の施設運営全体を総括いたします。本年度は介護・看護・栄養・機能訓練の各部門が、それぞれの専門性を発揮しながら、入居者一人ひとりの尊厳と生活の質の向上に努めた一年となりました。各部門からの事業報告を踏まえ、施設長として施設全体の成果と課題を、以下のとおりご報告いたします。

1. 運営の成果

(1) 満床の達成と健全な経営

待機者の確保につきましては例年苦勞してまいりましたが、本年度は関係機関との連携や情報発信に努めた結果、満床を達成することができました。あわせて、健全経営を目標に職員一丸となって取り組んだ結果、約 1,200 万円の黒字を計上することができました。各部門におけるコスト意識の徹底、特に給食部門での飲料費の見直し（年間約 11 万 8 千円の削減）など、現場レベルでの地道な努力の積み重ねが大きく寄与したものと考えております。

(2) 特定技能実習生の受け入れ

特定技能実習生の受け入れは、丸 2 年を経過いたしました。日常生活および業務上のコミュニケーションは問題なく取れており、夜勤にも従事しております。勤務態度は大変良好で、遅刻や無断欠勤は一切なく、業務上の事故も発生しておりません。日本での生活にも慣れ、施設にとって欠かせない戦力として定着しております。人材確保が年々厳しさを増すなか、外国人材が安心して働き続けられる職場づくりは、今後の安定的な施設運営の基盤として極めて重要であると認識しております。

(3) 職員研修の充実

本年度の職員研修は、動画教材を中心に実施いたしました。看取り介護、認知症介護、事故防止、権利擁護・身体拘束・高齢者虐待防止、感染症対策、褥瘡予防、接遇マナーなど、介護現場に求められる幅広いテーマを計画的に学ぶ機会を設けました。動画を活用することで、各職員が業務の合間に無理なく受講でき、知識・技術の底上げと標準化を図ることができました。

(4) 福利厚生の充実

職員の処遇改善と定着促進を目的として、資格手当・夜勤手当・処遇改善手当を、それぞれ増額いたしました。職員が安心して長く働き続けられる環境を整えることは、ケアの質の維持・向上に直結するものであり、引き続き処遇の改善に取り組んでまいります。

(5) BCP（業務継続計画）に基づく合同訓練の実施

災害発生時の業務継続体制を確かなものとするため、本年度は災害を想定した合同訓練を実施いたしました。訓練にはくぬぎ荘のほか、地域包括支援センターささえりあ植木、系列施設である小規模多機能型居宅介護事業所あんず、居宅介護支援事業所まるが参加し、各事業所が連携して取り組みました。複数の事業所が共同で訓練を行うことで、災害時における連絡体制や役割分担を相互に確認することができ、地域全体での災害対応力の強化につながりました。

2. 看取り介護について

本年度は、看取り介護を行う機会が多い一年となりました。長期入居の方を中心に、最期までなじみの環境のなかでいつもと変わらない生活を送っていただき、穏やかにご家族に見守られながら旅立たれた方もいらっしゃいました。一方で、お一人おひとりをお見送りするたびに、終末期を支援することの難しさや、尊厳ある最期を迎えていただくためのケアのあり方を、改めて考えさせられました。入居者およびご家族に満足いく最期を送っていただくため、職員一同、今後さらに努力を重ねてまいりたいと考えております。

3. 次年度に向けた課題

(1) 入居者・ご家族の満足度向上

入居者およびご家族の満足度向上に向けた具体的な取り組みは、本年度十分に着手することができませんでした。次年度の重要な課題として位置づけ、満足度の把握と改善の仕組みづくりに取り組んでまいります。

(2) 地域との交流

地域との交流につきましては、ユトリック団地の住民との交流を検討いたしましたが、本年度中の実現には至りませんでした。地域密着型施設としての役割を果たすうえでも、次年度は地域住民との交流の実現に向けて、具体的な企画を進めてまいります。

(3) その他の課題

- ・ 看護師の安定的な確保と医療対応体制の維持・強化
- ・ 限られた人員のなかでの環境整備・清掃の徹底
- ・ レクリエーション等への参加者の固定化の解消と、重度入居者への楽しみの提供
- ・ 感染症予防備品の安定的な確保

総括

本年度は、満床の達成と黒字計上という経営面での成果を得るとともに、特定技能実習生の定着やBCP合同訓練の実施など、施設の基盤強化につながる取り組みを進めることができました。これらは各部門の職員一人ひとりの努力と、関係機関ならびに地域の皆様のご支援の賜物であり、深く感謝申し上げます。一方で、入居者・ご家族の満足度向上や地域との交流など、次年度に持ち越した課題も少なくありません。看取り介護を通じて見つめ直した「その人らしい最期」を支えるケアの理念を大切にしながら、引き続き入居者の尊厳と生活の質の向上に努め、地域に信頼される施設運営を目指してまいります。

熊本市北 1 地域包括支援センター(熊本市高齢者支援センターささえりあ植木)

地域とのつながりを大切にしながら、熊本市北 1 地域包括支援センターでは以下の活動を展開いたしました。

(自立支援型地域ケア会議)

令和 7 年度は、5 月、6 月、8 月、9 月、11 月、12 月に 2 事例ずつ事例提供いただき、計 12 事例のケア会議とモニタリングを開催いたしました。会議を通じて熊本市の自立支援型ケアプラン作成支援事業に 1 件結びついております。

(地域密着サービス運営推進会議への出席)

今年度は 37 回出席いたしました。BCP 担当校区ごとに主の職員が参加し、事業所への訪問や ZOOM にて各事業所の職員や地域の方々との顔合わせや施設の特性の把握、また各校区の地域の課題や特性をより深く把握できるよう取り組みました。

(サロン・体力測定等への参加)

20 か所のサロン・老人クラブから体力測定の依頼があり、1 回目にはすべて参加し協力を行いました。また、サロンの出前講座も各サロン年 2 回を上限とし地域包括支援センターが講演を行いました。

(高齢者見守り事業)

熊本市が実施するアンケート結果をもとに、植木町在住の独居もしくは高齢者世帯で民生委員が把握されていない 49 世帯を訪問し、心身の状況や家族の状況を把握し希望される方には定期訪問を実施いたしました。

(権利擁護業務)

令和 7 年度は、虐待対応 7 件、成年後見制度の相談 3 件、養護老人ホームへの入所 6 件(うち 1 件は虐待による緊急保護入所)熊本市や関係機関と連携し支援いたしました。

(介護支援専門員に対する援助)

困難ケースの相談があった場合は同行訪問や担当者会議への参加、ケース会議を開催し関係機関と情報共有し問題解決に向けて行動いたしました。